

栃木県建設業協会100周年記念事業

記念講演会

栃木県建設業協会（谷黒克守会長）は令和4年11月11日ホテル東日本宇都宮において、創立100周年記念式典・祝賀会を開催しました。

式典には来賓として福田富一栃木県知事、茂木敏充自民党幹事長、当協会の顧問でもある佐藤勉衆議院議員、山形修治栃木県議会議長、石津健光茨城県建設業協会会長、渡邊勇雄栃木県建設団体連合会長、栃木県市長会長の佐藤栄一宇都宮市長、佐藤信秋、足立敏之の両参議院議員、栃木県の幹部職員、栃木県議会議員、関連団体の代表など多数が招かれました。多くの会員企業も出席し総勢約450人の式典となりました。



佐藤勉衆議院議員



渡邊勇雄栃木県建設団体連合会長



佐藤信秋参議院議員



足立敏之参議院議員

1923年1月に「栃木縣土木建築請負業組合」として発足した「栃木県建設業協会」は、現在では会員会社総数348社を数える県内最大規模の組織へと発展し、「地域の守り手」としての社会的な使命を果

記念式典

たすべく、次なる一世紀に向かって新たな進化を遂げ、希望の持てる産業への構造改革を推し進めています。

1. 記念講演会

政治ジャーナリストの田崎史郎氏が「日本の政治の舞台裏～岸田政権の行方」と題して、式典に先立って記念講演が行われました。建設業界における影響なども交えて講演いただき、「今後岸田政権の支持率低下には拍車がかかるだろう。」との予測を披露していただきました。



田崎史郎氏

2. 記念式典

開式にあたり谷黒会長は「地域建設業は地域の守り手としてますます重要となっている。経営力の強化、技術のさらなる向上に努め、担い手確保のための働き方改革など、新しい課題に積極的に取り組み、100周年を新たな進化を遂げる出発の年とし、会員企業の発展を目指し、総力を結集し、未来の子供たちが安心して暮らせる県土づくりに貢献する。」と式辞を述べました。



谷黒克守会長



増淵薫創立100周年記念事業実行委員長



福田富一栃木県知事

来賓からは福田富一栃木県知事が「県建設業協会は地域の守り手として、大きな役割を果たしてきた。2011年の東日本大震災の復旧復興や2019年の東日本台風における迅速な対応、鳥インフルエンザや豚熱といった防疫活動などにも活躍し、深く敬意を表する。今後も安全安心を実感できるとちぎづくりに特段の協力をお願いしたい。」と挨拶がありました。



茂木敏充自民党幹事長

また茂木敏充自民党幹事長は「関東大震災の年に発足してから100年にわたり、地域の守り手として生活や経済、産業に欠かせないインフラの整備、社会基盤の強化に努めてきた歴代の会長および会員に対して敬意を表する。」と感謝のお言葉がありました。

その後100周年を機に建設業進化論の誓いの証となる新しいロゴマークが披露となりました。新ロゴマークは栃木の「T」建設の「C」、その間に古来の建築にまつわる千木をモチーフに交差する形状をデザインし、併せてDXを推進する新産業への進化を込めた「X」を入れたものです。



3. 祝賀会



佐藤栄一宇都宮市長

祝賀会では佐藤栄一宇都宮市長が「17日からLRTの試運転を開始する。夜間から早朝にかけて初日は時速5km、翌日から時速15kmで走行。全国が注目する公共交通のあり方を問う試金石。県内への移住定住につなげたい。」と挨拶がありました。



木村好文自民党栃木県連幹事長

その後正副会長と来賓の方々での鏡開きが行われ、木村好文自民党栃木県連幹事長の乾杯で祝宴へと入りました。

祝宴中は「スタジオミュージシャン」また「ものまねシンガー」としてテレビ等でも活躍中の「荒牧陽子」さんのステージのアトラクションもあり、大変盛り上がりしました。

